別紙

研 究 等 成 果 報 告 書

研究費の区分	学部等研究費 種目：
研 究 課 題	本学における望ましい教員養成制度の在り方に関する調査研究
学部等・職・氏名	共通教育センター・教授・松本裕司 共通教育センター・准教授・藤井義久
研究成果の概要	平成２０年度おこなった、ア．国内他大学の教職課程カリキュラム、イ．岩手県における「めざす教員像」、およびウ．先導的に試行されている「教職実践演習」の調査の結果、以下のことが明らかとなった。アについては、私立大学の積極的な試みがみられ、教育実践力の形成、専門的学力の向上、他大学との連携による教職課程の充実などをはかる動向が確認された。イについては、「主体的な学校運営」を求める学習指導要領の方針をふまえ、小中高校の各学校段階において、「めざす教師像」「めざす子ども像」「めざす学校像」などを設定していることが明らかとなった。ウの教職実践演習については、都留文科大学における現地調査から、実践的指導力形成に関わる先導的試みの内容や特徴が確認できた。（松本） 本学における望ましい教員養成制度の在り方について検討するために、デンマークを訪問し、王立デンマーク教育大学の Jensen 教育社会学部長にデンマークの教員養成制度の現状と課題に関するインタビュー調査を実施した。その結果、デンマークにおいても日本と同様に精神的な問題を抱えている教員は全体の 10～15%いるがサポート体制がしっかりしていること、教員の資質・能力として生徒とのコミュニュケーション能力及び英語・国語・数学といった主要３科目の能力を重視していること、教員免許取得において最も重要な卒業試験の評価においてはポローニャプロセスを用いた第三者評価が導入されていることなど明らかになった。（藤井）
目標の達成状況	上記概要に示したことから、本学においては、地域の現状や実態をふまえ、大学として教員養成をどのように位置づけるか、が必ずしも明確ではないことが明らかになってきた。また、取得免許の将来的構想が各学部まかせであるとともに、実践的指導力形成をめざす教職課程カリキュラムをどのように編成するかなどの課題が確認できた。今後は、その課題をふまえ中教審が指摘する責任ある指導体制のあり方、ならびに本学が養成をめざす教員像などについてさらに検討を加えたいと考える。(松本) 平成20年７月30日に実施した王立デンマーク教育大学におけるインタビュー調査の結果、教員の資質・能力の向上を目指した具体的施策が見えてきた。特に、わが国でも大学卒業時に教員の資質能力が身についたかどうか最終確認することが義務づけられようとしているが、そういった評価においてはきちんとした評価表に基づいて第三者評価を実施し確認することの重要性について気づかされただけでも、本研究の当初の目標を概ね達成できたと言える。今後は、さらに本インタビュー調査結果を今後の本学における教員養成制度改革につなげていきたいと考えている。（藤井）
成果発表等	添付資料の通り。